#### **Panasonic**

# 2016年度 第2四半期 決算概要

2016年 10月31日 パナソニック株式会社

◆ 本日はご多用のところ、お集まりいただき、 誠にありがとうございます。

# 本日の内容 1. 発表のポイント 2. 2016年度 第2四半期 決算概要 3. 2016年度 年間業績見通し

**Panasonic** 

● 最初に、本日の発表のポイントをご説明いたします。

1 2016年度 第2四半期 決算概要

### 発表のポイント

#### 20実績

- 売上高は、実質ベースでは前年並も、為替影響が大きく響き減収
- > 営業利益は、為替や固定費増、前年度特需の反動等により減益

#### 年間見通し

- ▶ 足元の為替や市況等を踏まえ、年間見通しを下方修正
- > 期末配当は10円を下限、年間配当は20円以上

2016年度 第2四半期 決算概要

- 第2四半期の売上高は、為替影響を除く実質ベースでは、 地震影響や、ソーラー等の市況悪化による減販があったものの、 ハスマンの連結子会社化や、電池等の車載事業が伸長し、 前年並となりました。 しかし、為替影響が大きく響き、全体では減収となりました。
- 営業利益は、 為替影響に加えて、先行投資等による固定費増、 ソリューション事業の前年度特需の反動等により減益となりました。
- 年間見通しは、 足元の為替、市況、成長事業への投資前倒し等の状況を 踏まえて、売上高、営業利益、純利益を下方修正させて頂きます。
- このように、下方修正をさせて頂くこととなりましたが、 株主の皆様への還元を重視する観点から、 年間配当は20円以上を行ってまいります。

# 本日の内容 1. 発表のポイント 2. 2016年度 第2四半期 決算概要 3. 2016年度 年間業績見通し **Panasonic**

続きまして、第2四半期、3ヶ月ベースでの決算概要をご説明します。

3 2016年度 第2四半期 決算概要

# 2016年度 第2四半期 連結業績

|                       |        | IFRS(非監査)   |                 |              |  |  |  |
|-----------------------|--------|-------------|-----------------|--------------|--|--|--|
|                       | 16年度2Q | 15年度2Q      | 前年比             | / 差          |  |  |  |
| 売上高                   | 17,650 | 19,174      | 92%<br>(101%)*1 | ▲1,524       |  |  |  |
| 調整後営業利益 *2            | 872    | 1,298       | 67%             | <b>▲</b> 426 |  |  |  |
| その他の損益                | 191    | ▲226        | _               | +417         |  |  |  |
| 営業利益                  | 1,063  | 1,072       | 99%             | <b>▲</b> 9   |  |  |  |
| 営業外損益                 | 2      | <b>▲</b> 53 | _               | +55          |  |  |  |
| 税引前利益                 | 1,065  | 1,019       | 105%            | +46          |  |  |  |
| 親会社の所有者に帰属する<br>当期純利益 | 1,043  | 546         | 191%            | +497         |  |  |  |
| フリーキャッシュフロー           | ▲640   | ▲391        |                 |              |  |  |  |

| 米国会計基準 |        |                 |              |  |
|--------|--------|-----------------|--------------|--|
| 16年度2Q | 15年度2Q | 前年比             | / 差          |  |
| 17,470 | 19,026 | 92%<br>(100%)*1 | ▲1,556       |  |
| _      | _      | _               | _            |  |
| _      | _      | _               | _            |  |
| 777    | 1,239  | 63%             | <b>▲</b> 462 |  |
| 167    | ▲325   | _               | +492         |  |
| 944    | 914    | 103%            | +30          |  |
| *3 982 | *3 518 | 189%            | +464         |  |
| A 600  | A 270  |                 |              |  |

- 122円 1USドル 102円 為替 1ユーロ 114円 136円 レート 1人民元 15.4円 19.3円
- \*1 為替の影響を除いた実質ベース(非監査)
- \*2 IFRSにおいて、売上高から、売上原価と、販売費及び一般管理費を 控除して算出した指標
- \*3 当社株主に帰属する当期純利益

4 2016年度 第2四半期 決算概要

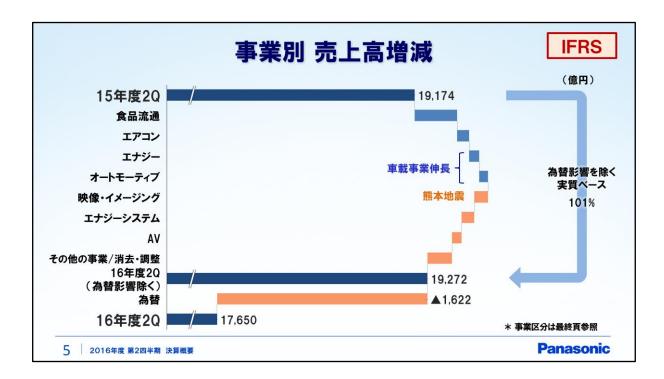
**Panasonic** 

(億円)

今期については、

第3四半期まで、決算短信等の開示は米国会計基準で 行ってまいります。しかし、年間決算はIFRSでの開示となること、 社内経営管理はすでにIFRSで行っていることから、 非監査ではありますが、IFRSベースにて 業績のご報告をさせて頂きます。

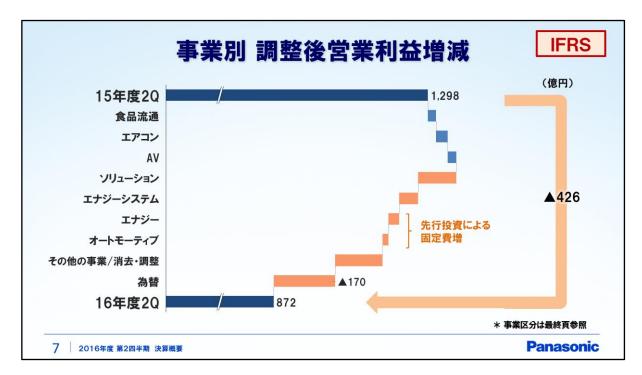
- 売上高は、前年同期比92%となり、減収となりました。 為替影響を除く実質ベースでは、新規連結効果に加え、 車載事業の増収等により、前年並となっております
- 米国基準の営業利益に近い項目である調整後営業利益は、 為替やソリューション事業の前年特需の影響等により 426億円減益の、872億円となりました。
- その他の損益は、417億円増益の191億円となり、 営業利益は、9億円減益の1.063億円、 純利益は、497億円増益の1.043億円となりました。
- フリーキャッシュフローにつきましては、 マイナス640億円となりました。



- はじめに、売上高の増減要因をご説明します。
- 今回から、増減額が大きい「売上開示事業単位」で説明いたします。 なお、「売上開示事業単位」については、最終頁をご参照ください。
- 為替影響を除く実質ベースで見ますと、 食品流通はハスマンの新規連結、 エアコンは中国、欧州、アジアでの拡販、 エナジー、オートモーティブは、二次電池など車載事業の伸長により、それぞれ増収となりました。
- 一方で、
   映像・イメージングは、熊本地震の影響
   エナジーシステムは、市況悪化に伴うソーラーの減販、
   AVは、テレビの欧州市場での苦戦により、
   それぞれ減収となっております。
- これらの結果、実質ベースでは、前年並となりましたが、 為替が大きく影響し、全体では減収となりました。



- 次に、調整後営業利益の増減要因をご説明します。
- 新規連結による利益増23億円があったものの、 ソーラー事業の減販影響などにより90億円の減益。
- これらの影響を、材料合理化等でカバーすることを目指したものの、 改善額は50億円にとどまりました。
- これに加え、先行投資を含む固定費の増加、為替の影響により、 全体としては、426億円減益の872億円となりました。



- こちらの表は、「売上開示事業単位」で増減要因を お示ししたものです。
- 新規連結のあった食品流通事業、 エアコンはプレミアム商品の貢献、 AVは、4Kテレビ等の高付加価値商品シフトにより収益性が 改善し、それぞれ増益となりました。
- ソリューションは、前年に特需があった反動から、今期は大幅な減益、 エナジーシステムは、ソーラーの大幅減販に伴う減益。
- これに加え、エナジーおよびオートモーティブでは、将来成長に 向けた仕込みとしての先行投資増により減益となりました。
- 更に、為替の影響も大きく、全体では872億円となりました。

## 営業利益・当期純利益

(億円)

|                   | IFRS(非監査) |              |
|-------------------|-----------|--------------|
|                   | 16年度2Q    | 前年差          |
| 調整後営業利益           | 872       | <b>▲</b> 426 |
| その他の損益            | 191       | +417         |
| 営業利益              | 1,063     | <b>▲</b> 9   |
| 営業外損益             | 2         | +55          |
| 税引前利益             | 1,065     | +46          |
| 法人税等              | ▲42       | ▲439         |
| 当期純利益             | 1,107     | +485         |
| 非支配持分に帰属する当期純利益   | 64        | ▲12          |
| 親会社の所有者に帰属する当期純利益 | 1,043     | +497         |

| 米国会計基準     |         |  |  |  |
|------------|---------|--|--|--|
| 16年度2Q     | 前年差     |  |  |  |
| _          | 1       |  |  |  |
| _          | -       |  |  |  |
| 777        | ▲462    |  |  |  |
| 167        | +492    |  |  |  |
| 944        | +30     |  |  |  |
| *1 ▲90     | *1 ▲422 |  |  |  |
| 1,034      | +452    |  |  |  |
| 52         | ▲12     |  |  |  |
| *2 982     | +464    |  |  |  |
| *1 持分法による投 | 資捐益を含む: |  |  |  |

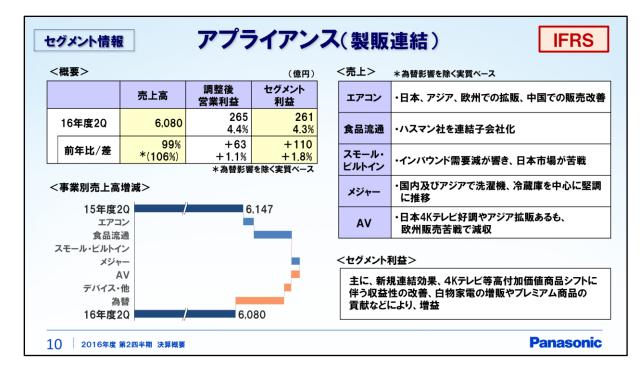
\*1 持分法による投資損益を含む \*2 当社株主に帰属する当期純利益

2016年度 第2四半期 決算概要

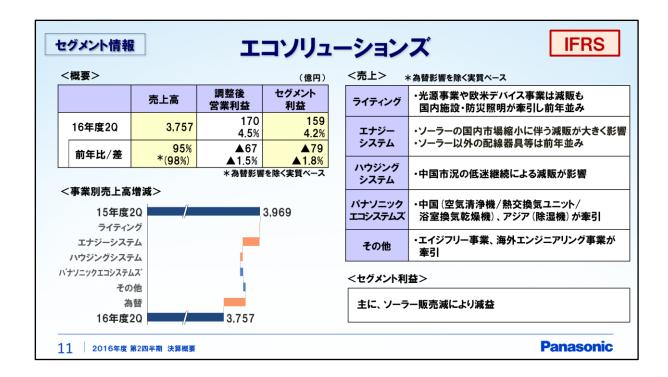
- こちらは、営業利益と当期純利益です。
- その他の損益は、 事業売却益や訴訟関連引当の戻入れ益などにより、 前年から417億円良化の191億円、 営業利益は、ほぼ前年並みの1,063億円となりました。
- 税引き前利益は、46億円増益の1,065億円、 親会社の所有者に帰属する当期純利益は、 前年から497億円増益の1,043億円となりました。
- これは、パナソニック プラズマディスプレイ株式会社の清算を 決議したことで、繰延税金資産を182億円計上したこと等によります。

|                             |        | セクン          | メント別 | 川美術           | Į           |      | L          | IFRS        |
|-----------------------------|--------|--------------|------|---------------|-------------|------|------------|-------------|
|                             |        |              |      |               |             |      |            | (億円         |
|                             |        |              |      | 2016 <b>±</b> | F度2Q        |      |            |             |
|                             | 売上高    |              | 調整後  |               | その他の        |      | セグメント      |             |
|                             | 70110  | 前年差          | 営業利益 | 前年差           | 損益          | 前年差  | 利益         | 前年差         |
| アプライアンス                     | 5,688  | <b>▲</b> 25  | 275  | +54           | <b>▲</b> 4  | +46  | 271        | +10         |
| エコソリューションズ                  | 3,757  | ▲212         | 170  | <b>▲</b> 67   | ▲11         | ▲12  | 159        | <b>▲</b> 7  |
| AVCネットワークス                  | 2,425  | <b>▲</b> 580 | 139  | ▲138          | <b>▲</b> 11 | ▲15  | 128        | <b>▲</b> 15 |
| オートモーティブ &<br>インダストリアルシステムズ | 6,330  | <b>▲</b> 570 | 202  | ▲221          | 267         | +316 | 469        | +9          |
| その他                         | 1,445  | <b>▲</b> 87  | 39   | <b>▲</b> 24   | 2           | ▲2   | 41         | ▲2          |
| 小計                          | 19,645 | ▲1,474       | 825  | ▲396          | 243         | +333 | 1,068      | <b>▲</b> 6  |
| 消去·調整                       | ▲1,995 | <b>▲</b> 50  | 47   | <b>▲</b> 30   | <b>▲</b> 52 | +84  | <b>▲</b> 5 | +5          |
| 連結決算(IFRS)                  | 17,650 | ▲1,524       | 872  | <b>▲</b> 426  | 191         | +417 | 1,063      | •           |
| アプライアンス(製販連結)               | 6,080  | <b>▲</b> 67  | 265  | +63           | ▲4          | +46  | 261        | +11         |
| * 非監査                       |        |              |      |               |             |      |            |             |

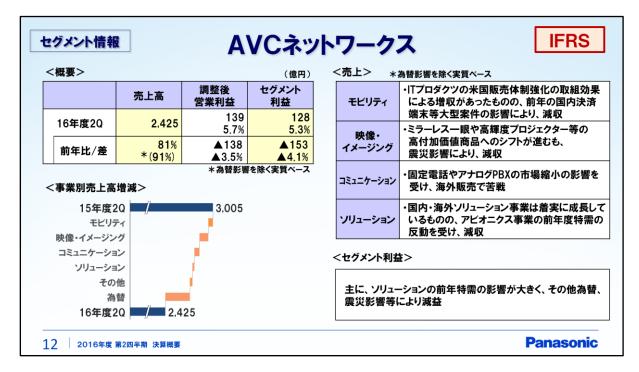
● 続いて、セグメント別の実績をご説明いたします。



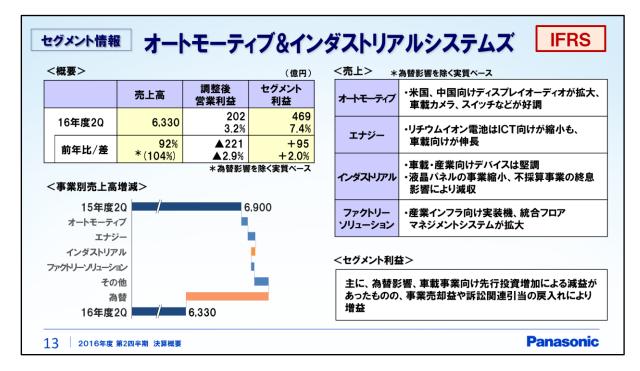
- 最初にアプライアンス、製販連結ベースの実績です。
- 第2四半期の事業環境は、国内は天候不順等により、 業界の総需要は前年比97%でありましたが、 当社は104%と業界以上の実需を刈り取ることができ、 上期累計ではシェアを約1ポイント上げることができました。 海外では、中国は厳しい状況が続いておりますが、 アジアでは好調を維持しております。
- 売上高は、為替を除く実質ベースで、前年同期比106%、 増収となりました。
- 主な事業別では、エアコンが、日本、アジア、欧州での拡販に加え、 中国市場の販売改善により、増収。
- メジャー事業は、国内およびアジアで、洗濯機、冷蔵庫を中心に 堅調に推移し、増収。
- 一方、AV事業は、日本でのリオオリンピック4Kテレビ需要を 刈取りましたが、欧州市場での苦戦が影響し、減収。
- セグメント利益は、新規連結効果に加え、4Kテレビ等の 高付加価値商品シフトによる収益性の改善、 エアコンを中心としたプレミアム商品の貢献により、 増益となりました。



- ◆ 次に、エコソリューションズです。
- 第2四半期の事業環境は、 国内の住宅着工は、前年を上回り、回復傾向ですが、 ソーラーの国内住宅市場は、価格下落や競争激化など、 厳しい状況が継続しました。
- 売上高は、為替を除く実質ベースで、 前年同期比98%と減収。
- これは主に、ソーラー国内住宅市場縮小に伴う 販売減によるものです。
- セグメント利益も、主にソーラーの販売減の影響により、 減益となりました。



- 続いて、AVCネットワークスですが、映像・イメージング事業の 部品調達において、引き続き熊本地震の影響が生じております。
- 売上高は、為替を除く実質ベースで前年同期比91%の 減収となりました。
- 事業別では、モビリティは、前年度の国内決済端末等の 大型案件売上の影響により、減収。
- 映像・イメージングは、高付加価値商品販売は堅調でしたが、 熊本地震の影響をカバーできず、減収。
- コミュニケーションは、固定電話などの市場縮小の影響を受け、 特に米国やアジアで減収。
- ソリューションは、国内および海外ソリューション事業の伸長があったものの、アビオニクス事業の前年度特需の反動により、全体では減収となりました。
- セグメント利益は、為替や震災影響に加え、前年度に特需があった ソリューションの影響が大きく、全体では減益となりました。



- 最後は、オートモーティブ&インダストリアルシステムズです。
- 第2四半期の事業環境は、 自動車販売は、概ねグローバル全体で好調でした。 他方、ICT関連では、ノートPC市場は縮小傾向が継続、 スマートフォン市場も低調な伸びにとどまりました。
- このような中、売上高は、為替を除く実質ベースで、 前年から104%の増収となりました。インダストリアル以外はすべて増収です。
- ★ートモーティブは、ディスプレイオーディオ、車載カメラ、 スイッチなどが好調に推移し、増収。
- エナジーは、リチウムイオン電池がICT向けに縮小したものの、 車載向けが伸長、全体では増収。
- インダストリアルでは、車載・産業向けは堅調でしたが、 TV向け液晶パネルの縮小、光ディスクドライブの 事業終息影響などにより、減収。
- ファクトリーソリューションは、産業インフラ向け実装機や 統合フロアマネジメントシステムが伸長し、増収となりました。
- 調整後営業利益は、為替の影響が最も大きく、 その他、車載向け先行投資による固定費の増加等により 減益となりました。
- セグメント利益は、事業売却益や訴訟関連引当の戻入れにより、 増益となっております。

## 大規模6事業部・テレビ事業部

**IFRS** 

(億円)

|                |       | 2016年度2Q    |             |             |            |      |    |             |
|----------------|-------|-------------|-------------|-------------|------------|------|----|-------------|
|                | 売上高   |             | 調整後         |             | その他の       | その他の |    | 3           |
|                | 元上向   | 前年差         | 営業利益        | 前年差         | 損益         | 前年差  | 利益 | 前年差         |
| エアコン *1        | 1,091 | +5          | 49          | +38         | <b>▲</b> 6 | +3   | 43 | +41         |
| ライティング         | 745   | <b>▲</b> 33 | 41          | <b>▲</b> 5  | 1          | +12  | 42 | +7          |
| ハウジングシステム      | 913   | <b>▲</b> 16 | 39          | <b>▲</b> 5  | ▲12        | ▲12  | 27 | ▲17         |
| インフォテインメントシステム | 1,192 | ▲142        | 60          | <b>▲2</b> 3 | <b>▲</b> 1 | ▲2   | 59 | <b>▲</b> 25 |
| 二次電池 *2        | 877   | <b>▲</b> 17 | <b>▲</b> 57 | <b>▲</b> 69 | 143        | +178 | 86 | +109        |
| パナホーム          | 930   | <b>▲</b> 56 | 42          | ▲22         | 0          | ▲0   | 42 | ▲22         |
| テレビ *1         | 710   | ▲162        | 17          | +10         | 1          | +34  | 18 | +44         |

14 2016年度 第2四半期 決算概要

**Panasonic** 

● 大規模6事業部とテレビ事業部の実績は、 ご覧の通りでございます。

<sup>\*1:</sup> 販売部門を含む製販連結 \*2: 二次電池事業部+テスラBU \*3: 「事業部利益」はIFRSの営業利益を表しています。

# 本日の内容 1. 発表のポイント 2. 2016年度 第2四半期 決算概要 3. 2016年度 年間業績見通し **Panasonic**

▶ 続いて、2016年度年間業績見通しについてご説明します。

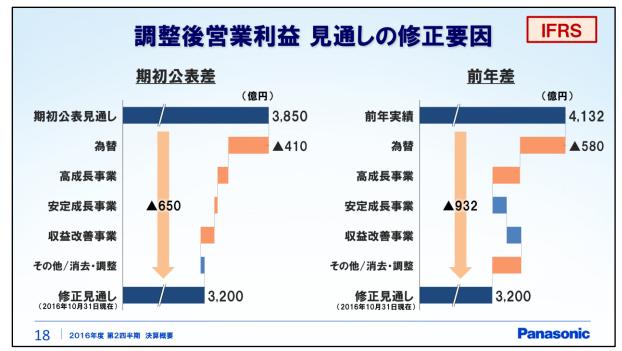
15 2016年度 第2四半期 決算概要

#### **IFRS** 2016年度 年間業績見通しの修正 (億円) **見通し** (2016年10月31日時点) 前年実績 期初公表 修正額 前年差 (非監査) 72.000 76.000 ▲4.000 76.263 **▲**4.263 売上高 調整後営業利益 3.200 3.850 **▲**650 4.132 ▲932 +1.079その他の損益 **▲**750 **▲**750 **▲**1.829 2,450 3,100 2.303 +147 営業利益 **▲**650 **▲**100 +50 ▲20 ▲30 営業外損益 **▲**50 +117税引前利益 2,400 3,000 **▲**600 2,283 親会社の所有者に帰属する 1,200 1.450 ▲250 1.596 ▲396 当期純利益 戦略投資を除く 1.500以上 1.500以上 2.273 フリーキャッシュフロー 1USドル 103円 115円 ▲12円 120円 ▲17円 為替 1ユーロ 114円 125円 ▲11円 133円 ▲19円 レート 15.5円 17.6円 ▲2.1円 18.9円 ▲3.4円 1人民元 **Panasonic** 16 2016年度 第2四半期 決算概要

- 売上高は、期初公表値から4,000億円下方修正し、 7兆2,000億円といたします。
   為替による影響額は3,600億円となり、修正額の殆どが為替によるものです。
- 調整後営業利益は、650億円下方修正し、 3,200億円といたします。為替による影響410億円に加え、 ソーラーやICT向けデバイスの苦戦等の状況を織り込みました。
- 税引前利益は、600億円下方修正し、2,400億円、 当期純利益は、250億円下方修正し、1,200億円 とさせて頂きます。
- なお、戦略投資を除くフリーキャッシュフローは、期初公表から 修正はなく、1.500億円以上を目指します。



- ここでは、調整後営業利益の見通しの修正要因について、 まずは要素別にご説明いたします。
- ご覧のとおり、為替による影響が410億円と最も大きく、 これに加え、実質ベースでの売上減少等により 全体では650億円下方修正をさせていただきます。



- 続いて、調整後営業利益の見通しの修正について、 3月の事業方針発表にてご説明した、高成長事業、安定成長事業、 収益改善事業の区分で、補足説明いたします。なお、各区分に含まれる主な事業領域は参考資料の28ページに示しております。
- まず、左側の期初公表見通しとの差ですが、為替を除く実質ベースでは、高成長事業は、二次電池の投資前倒し等もあり下方修正。
- 安定成長事業については、エアコンなどが改善しているものの、 ソーラーの減販影響により、全体としては下ぶれ。
- 収益改善事業については、 ICT向け事業で苦戦しているデバイスソリューションや、 想定以上のスピードで市場が縮小しているオフィスプロダクツ等の 厳しい事業環境を織り込みました。
- 一方、右側の前年実績との比較においては、 高成長事業は、車載事業等の将来に向けた先行投資により減益、 安定成長事業は、ソーラーの減販があるものの、エアコンを中心と した白物家電等の貢献により全体では増益、 収益改善事業は、販売体制強化に取り組んだモビリティや、 コミュニケーション等の収益改善により、全体では増益となる 見通しです。
- このように、前年との比較においては、 為替の影響はあるものの、それぞれの事業区分での取組みが 全体としては着実に推移していると考えております。

#### セグメント別の見通しの修正

**IFRS** 

(億円)

|                             |        | 2016年度見通し(2016年10月31日時点) |       |              |              |              |       |              |
|-----------------------------|--------|--------------------------|-------|--------------|--------------|--------------|-------|--------------|
|                             | 売上高    |                          | 調整後   |              | その他の         |              | 営業利益  |              |
|                             | 九二四    | 修正額                      | 営業利益  | 修正額          | 損益           | 修正額          |       | 修正額          |
| アプライアンス                     | 22,800 | <b>▲</b> 900             | 1,100 | +36          | <b>▲</b> 70  | +24          | 1,030 | +60          |
| エコソリューションズ                  | 15,700 | <b>▲</b> 700             | 840   | ▲118         | <b>▲</b> 50  | +8           | 790   | ▲110         |
| AVCネットワークス                  | 10,450 | ▲1,300                   | 600   | ▲145         | ▲100         | +55          | 500   | <b>▲</b> 90  |
| オートモーティブ &<br>インダストリアルシステムズ | 24,700 | ▲1,700                   | 760   | <b>▲</b> 410 | 170          | +340         | 930   | <b>▲</b> 70  |
| その他                         | 6,300  | <b>▲</b> 600             | 120   | ▲20          | <b>▲</b> 70  | +20          | 50    | -            |
| 消去·調整                       | ▲7,950 | +1,200                   | ▲220  | +7           | <b>▲</b> 630 | <b>▲</b> 447 | ▲850  | <b>▲</b> 440 |
| 連結決算                        | 72,000 | ▲4,000                   | 3,200 | <b>▲</b> 650 | <b>▲</b> 750 | -            | 2,450 | <b>▲</b> 650 |
| アプライアンス(製販連結)               | 25,000 | ▲1,000                   | 1,100 | +6           | <b>▲</b> 70  | +24          | 1,030 | +30          |

19 2016年度 第2四半期 決算概要

- 少にセグメント別の見通しの修正についてご説明いたします。
- アプライアンス社は、売上高を為替影響により下方修正。 調整後営業利益については、持ち帰り商品の為替影響等や 白物家電のプレミアム商品の貢献により、上方修正。
- エコソリューションズ社は、為替影響に加え、主にソーラー事業の 厳しい状況を踏まえ、売上高、調整後営業利益をいずれも 下方修正。
- AVCネットワークス社は、売上高は為替影響の他、 熊本地震の影響を受けている映像・イメージング事業、 市場縮小が進むコミュニケーション事業等の厳しい状況を反映し、 下方修正。
  - 調整後営業利益については、為替および地震影響等で下方修正。
- ▼オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社は、 為替影響により売上高を下方修正。
   調整後営業利益については、為替影響に加え、ICT向けデバイスの苦戦や、ギガファクトリー立ち上げ費用等を織り込みました。
- ◆ なお、ソーラー事業については、引き続き、厳しい市況が続くと 考えられる国内では、新製品投入によるシェア拡大を図り、 海外では、トルコ、インド、北米などにおいて、 拡販に取り組んでまいります。

#### **IFRS** 大規模6事業部・テレビ事業部の見通し修正 (億円) 2016年度見通し (2016年10月31日時点) 調整後 その他の 営業利益 売上高 営業利益 損益 修正額 修正額 修正額 修正額 **▲**461 エアコン \*1 4,585 297 ▲22 275 **▲**198 **▲**9 243 ライティング 3,190 252 ハウジングシステム 3,700 164 170 **▲**6 インフォテインメントシステム 4,780 ▲281 256 **▲**1 255 二次電池 3,338 ▲330 **▲**138 **▲**240 123 +190**▲**15 **▲**50 \*2 パナホーム \*3 3,700 ▲300 160 **▲**55 ▲22 テレビ **\*1** 3,034 ▲224 53 31 \*1: 販売部門を含む製販連結 \*2: 二次電池事業部+テスラBU

◆ 大規模6事業部とテレビ事業部の見通し修正はご覧のとおりです。

**Panasonic** 

\*3: パナホーム(株)の公表値(日本基準)

2016年度 第2四半期 決算概要



- これまでのご説明のとおり、2016年度の年間業績見通しを下方修正をさせて頂きます。
- しかしながら、経営体質改善は着実に進捗しており、来年度以降 の成長に向けた1兆円戦略投資は、手を緩めずに着実に実行して まいります。
- 現時点の進捗状況はご覧のとおり、1兆円の約7割が投資済み、 もしくは、方向付けが完了となっております。

## 期末配当の下限設定について

| 上期  | 下期    | 年間    |
|-----|-------|-------|
| 10円 | 10円以上 | 20円以上 |

- 最後に、今期の配当に関するご報告です。
- 今年度は、下方修正をさせていただくものの、 株主の皆様への還元を重視する観点から 期末配当については、1株当たり10円を下限とし、 今期の年間配当は、20円以上とさせて頂きます。

- ご説明は以上となります。
- 厳しい環境下ではありますが、持続的な成長の実現に向けて、 グループー丸となって取り組んでまいりますので、 今後も、当社へのより一層のご理解とご支援をお願いいたします。

本プレゼンテーションには、パナソニックグループの「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。平成29年3月期の連結業績予想は国際財務報告基準 (IFRS)に基づき作成しています。本プレゼンテーションにおける記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これ将来予想に関する記述は、現在入手 可能な情報に鑑みてなされたパナソニックブループの仮定および判断に基づものであり、これには既知または未知のリスカまとび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受けるおそれがあります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示されるパナソニックグループの将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。パナソニックグループは、本プレゼンテーションの日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、金融商品取引法に基づく今後の提出書類およびその他の当社の行う開示をご参照下さい。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、当社の有価証券報告書等にも記載されていますのでご参照下さい。

- ●米州、欧州、日本、中国その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費および企業による設備投資の動向
- ●多岐にわたる製品・地域市場におけるエレクトロニクス機器および部品に対する産業界や消費者の需要の変動
- ●ドル、ユーロ、人民元等の対円為替相場の過度な変動により外貨建てで取引される製品・サービスなどのコストおよび価格が影響を受ける可能性
- ●資金調達環境の変化等により、パナソニックグループの資金調達コストが増加する可能性
- ●急速な技術革新および変わりやすい消費者嗜好に対応し、新製品を価格・技術競争の激しい市場へ遅滞なくかつ低コストで投入することができない可能性
- ●他企業との提携または企業買収等で期待どおりの成果を上げられない、または予期しない損失を被る可能性
- ●パナソニックグルーブが他企業と提携・協調する事業の動向(BtoB(企業向け)分野における、依存度の高い特定の取引先からの企業努力を上回る価格下落圧力や製品 需要の減少等の可能性を含む)
- ●多岐にわたる製品分野および地域において競争力を維持することができなくなる可能性
- ●製品やサービスに関する何らかの欠陥・瑕疵等により費用負担が生じる可能性
- ●第三者の特許その他の知的財産権を使用する上での制約
- ●諸外国による現在および将来の貿易·通商規制、労働·生産体制への何らかの規制等(直接・間接を問わない)
- ●パナソニックグループが保有する有価証券およびその他資産の時価や有形固定資産、のれんなどの長期性資産および繰延税金資産等の評価の変動、その他会計上の方針や規制の変更・強化
- ●ネットワークを介した不正アクセス等により、当社システムから顧客情報・機密情報が外部流出する、あるいはネットワーク接続製品に脆弱性が発見され、多大な対策費用負担が生じる可能性
- ●地震等自然災害の発生、感染症の世界的流行、サプライチェーンの寸断、その他パナソニックグループの事業活動に混乱を与える可能性のある要素





# (参考) 2016年度 第2四半期(累計)連結業績

(億円)

|                       | IFRS(非監査)    |              |                 |              |  |
|-----------------------|--------------|--------------|-----------------|--------------|--|
|                       | 16年度<br>20累計 | 15年度<br>20累計 | 前年比             | / 差          |  |
| 売上高                   | 35,398       | 38,030       | 93%<br>(101%)*1 | ▲2,632       |  |
| 調整後営業利益 *2            | 1,640        | 2,115        | 78%             | <b>▲</b> 475 |  |
| その他の損益                | 141          | ▲269         | _               | +410         |  |
| 営業利益                  | 1,781        | 1,846        | 96%             | <b>▲</b> 65  |  |
| 営業外損益                 | 30           | ▲23          | _               | +53          |  |
| 税引前利益                 | 1,811        | 1,823        | 99%             | ▲12          |  |
| 親会社の所有者に帰属する<br>当期純利益 | 1,335        | 1,176        | 113%            | +159         |  |

| 米国会計基準       |              |                 |              |  |
|--------------|--------------|-----------------|--------------|--|
| 16年度<br>20累計 | 15年度<br>2Q累計 | 前年比             | / 差          |  |
| 34,955       | 37,604       | 93%<br>(101%)*1 | ▲2,649       |  |
| _            | _            | _               | _            |  |
| _            | _            | _               | -            |  |
| 1,446        | 2,005        | 72%             | <b>▲</b> 559 |  |
| 86           | ▲364         | _               | +450         |  |
| 1,532        | 1,641        | 93%             | ▲109         |  |
| *3 1,199     | *3 1,113     | 108%            | +86          |  |
| ▲2,270       | ▲231         |                 |              |  |

| フリーキャッシュフロー | ▲2,287 | <b>▲</b> 232 |
|-------------|--------|--------------|
|-------------|--------|--------------|

|           | 1USドル | 105円  | 122円  |
|-----------|-------|-------|-------|
| 為替<br>レート | 1ユーロ  | 118円  | 135円  |
| V-1       | 1人民元  | 16.0円 | 19.4円 |

- \*1 為替の影響を除いた実質ベース(非監査)
- \*2 IFRSにおいて、売上高から、売上原価と、販売費及び一般管理費を 控除して算出した指標
- \*3 当社株主に帰属する当期純利益

#### (参考)

#### 3事業区分の主な事業領域

#### 高成長事業

車載電池、次世代コックピット、ADAS、航空、 食品流通、リフォーム、エイジフリー など

#### 安定成長事業

エアコン、白物家電、小物家電、セキュリティカメラ、 FA、照明器具、電子材料、乾電池、配線器具及び ソーラー など

#### 収益改善事業

テレビ、半導体、液晶パネル、DSC、固定電話・FAX 堅牢PC、住宅建材 など

#### (参考)

#### 事業部一覧

#### アプライアンス

エアコンカンパニー テレビ事業部 ホームエンターテインメント事業部 冷蔵庫事業部 ランドリー・クリーナー事業部 キッチンアプライアンス事業部 ビューティ・リビング事業部 パナソニック サイクルテック(株) 冷熱空調デバイス事業部 スマートエネルギーシステム事業部 コールドチェーン事業部 Hussmann Corporation

#### エコソリューションズ

ライティング事業部 エナジーシステム事業部 ハウジングシステム事業部 パナソニック エコシステムズ(株)

#### AVCネットワークス

イメージングネットワーク事業部 ストレージ事業部 ビジュアルシステム事業部 Panasonic Avionics Corporation ITプロダクツ事業部 セキュリティシステム事業部 コミュニケーションプロダクツ事業部 オフィスプロダクツ事業部 システムソリューションズジャパンカンバニー

#### オートモーティブ& インダストリアルシステムズ

インフォテインメントシステム事業部 車載エレクトロニクス事業部 二次電池事業部 エナジーデバイス事業部 メカトロニクス事業部 パナソニック セミコンダ・クターソリューションズ(株) デバイスソリューション事業部 電子材料事業部 バナソニック液晶ディスプレイ(株) スマートファクトリーソリューション事業部

#### その他

パナホーム(株)

2016年10月31日時点

#### (参考)

#### 2016年度 売上開示事業の構成

# アプライアンス

・エアコン事業

: エアコンカンパニー

・食品流通事業 ・スモール・ビルトイン事業

: コールドチェーン事業部、Hussmann Corporation : キッチンアプライアンス事業部、ビューティ・リビング事業部

・メジャー事業 ・AV事業 : 冷蔵庫事業部、ランドリー・クリーナー事業部 : テレビ事業部、ホームエンターテインメント事業部

\*\* エコソリューションス ・ライティング事業部 ・エナジーシステム事業部 ・ハウジングシステム事業部 ・パナソニック エコシステムズ(株)

AVCネットワークス

・モビリティ事業 : ITプロダクツ事業部、ストレージ事業部

・映像・イメージング事業: イメージングネットワーク事業部、ビジュアルシステム事業部、

セキュリティシステム事業部

・コミュニケーション事業 : コミュニケーションプロダケツ事業部、オフィスプロダケツ事業部 ・ソリューション事業 : Panasonic Avionics Corporation、国内/海外ソリューション

オートモーティブ & インダストリアル システムズ ・オートモーティブ事業 : インフォテインメントシステム事業部、車載エレクトロニクス事業部 ・エナジー事業 : 二次電池事業部、エナジーデバイス事業部

・インダストリアル事業 : メカトロニクス事業部、パナソニック セミコンダクターソリューションズ(株)、

デバイスソリューション事業部、電子材料事業部、 パナソニック液晶ディスプレイ(株)

・ファクトリーソリューション事業 : スマートファクトリーソリューション事業部

\*1 エコソリューションズは、4つの事業部がそれぞれ売上開示事業